

会長退任のご挨拶



日立製作所 吉山 博吉

このたび2年の任期を終えて退任することになり、この間、役員の皆様や会員の皆様の暖かいご支援をいただき誠に感謝する次第でありまして、また心おきなく次期の皆様方に後をお受けしていただくことができ、衷心よりお礼申し上げる次第であります。振り返ってみますと、私のお受けした時期は日本の技術あるいは経済環境の大きな変化の時代であったといえます。

産業構造の変化あるいは企業内での製品構造の変化などに応えてゆかなければならない困難な時期でもあったわけで、すべての先進国がこれにとりくむ、また発展途上国におかれても新しい視野の下に経営のあるいは技術開発の方向づけをしなければならぬタイミングであったと思います。

この環境でのORの各種の研究開発の方向は強く期待され、国際的にも推進された時期であったと思ひ、今後の難しいハイテック時代での社会問題の解析やら経営の在り方に成果があるよう衷心より期待するものであります。

特にこの間、とかく外国からよくいわれる過去の時代、教わった技術の時代からもう脱却して、日本は自らの力で基礎研究のあるいは開発の重点化をやるべきであり、また、官学産の協力体制など各界の牽引力を評価される時期でもあったと考えられ、OR学会もその一翼を担うことができたことと感謝している次第であります。

さて、このOR学会は、振り返ってみますと昭和32年に創立されてから30周年ということになりました。この30周年の記念事業を委員会で検討していただいた次第ですが、「公的地位の確保」「研究活動の充実」「普及活動の強化」などを中心にしての、今後のOR学会の進むべき方向を十分検討され、方針の決定が進められており、その実現

化に大きく期待がもたれております。特に、この学会の研究の成果が経営の理念となり、その連繋の姿が実務に大きく寄与するものとして、最近大変クローズアップされてきていることを強く感ずる次第であります。

研究の対象としても学術的なものもまた経済にすぐ連繋することができるものもかなり増えてきており、特に産学の連繋研究開発体制のさらに進展を今後とも強く期待している次第であります。

またORの研究は今かなり国際的な課題に盛り上ってきており、先進国のみならず発展途上国においても課題となつてきて、そのセミナーなどが各国で行なわれる時代になってきています。

日本で行なわれる場合は、当然OR学会がとりくむべき課題になるわけで、また外国での場で研究の発表やらディスカッションをする機会もますますふえてきており、これらに対応する姿勢がORにとりくむ多くの研究者に強く期待されてきています。OR学会の責任として、かつてIFORSの大会などで日本をリードしていただいた過去の姿などをあらためて認識し、特に今貿易摩擦の厳しい経済環境の中で国際的な姿勢のあるべき姿を推進することと、また目をさらに広く発展途上国の期待にもお応えするなどの将来の採るべき道順を祈念する次第であります。

幸い次期役員メンバーも決まり、森村会長のご指導のもとで、当面のいろいろの課題をこなす、さらにさらに前進することをOR学会に心より期待申し上げる次第であります。

重ねて在任中のご協力ご支援を感謝申し上げ退任のご挨拶といたします。